

< 悪魔と天使の法学入門第24話 > 雇い止めと雇用対策

著者	星野 豊
雑誌名	月刊高校教育
巻	42
号	3
ページ	98-99
発行年	2009-03
URL	http://hdl.handle.net/2241/105918

【悪魔】 昨年末から、相当多くの「雇い止め」が行われて、大混乱になっていましたね。雇い止めされた人たちに対する支援活動がかなり詳しく報道されて、公的機関が最終的に救済に乗り出したようですけど、それに対する賛否両論があるのはなぜですか？ 困ったときはお互い様のような気がしないでもないんですけど。

【天使】 今回の一連の雇い止めは、近接した時期に大企業が連続して行ったために社会問題として認知された観が強いが、理論的には、個々の雇い止めは使用者と労働者との契約関係の効力の問題だ。雇用形態に様々なものがあり、使用者たる企業の経営状況によって雇い止めが行われること自体をすべからず違法であるということはできないから、公的機関の行うべき政策的対処としては、失業者一般に対する全体的な雇用政策の中で実現されていくことが望ましく、報道の対象とされた特定の者だけに例外的な救済が与えられたようなことがあったとすれば、公平の観点からやや問題を含む可能性があることは否めないわけだ。

悪魔と天使の 法学入門

筑波大学准教授 星野 豊

第24話

雇い止めと雇用政策

【悪魔】 それにしたって対応が後手に回っていたことは明らかでしょう。失業した人に対してどのような対処が最小限必要なのかは、普段から検討がなされていてもよさそうだと思いますけど、支援団体から要求されたものを、言われた順に少しずつ出していったような印象が強かったですよ。

【天使】 今回の国や地方自治体の救済措置が必ずしも機動的でなかったとしても政治的な特徴のある活動として捉える見解も存在している以上、全体に対して公平であることを第一義に要求される公的機関としては、特定の政治的活動と軌を一にすることは、それに対する批判や問題点を検討することなしには、直ちに行動にかかれない面がある。このような公的機関の地位を考えるならば、多少の対応の遅れはやむを得ないだろう。

【悪魔】 確かに、報道された様子を見ていたら、失業者の救済と一緒に、政治的なことがいろいろと主張されていたようではありませんね。でも、大量の雇い止めが行われて、職を失った

人が明日の生活にも困っていることは、社会全体に大きな影響を与えるわけですから、政治的な問題として捉えないことの方が、むしろ変だと思えますよ。

それに、ある主義主張を持った人たちが活動を支援しているということと、失業者の救済を公的機関がどのように行すべきかということとは、切り離して考えなければいけないんじゃないですか？ 公的機関がすべての市民に「公平」であれ、ということ強調し過ぎて、すべての人の意見の共通した部分だけしか行動してはいけない、という結果になっているように思えます。

【天使】 公的機関における意思決定は、基本的には法令によって与えられた権限と裁量の範囲内で行われるものだから、必ずしも多数派の意向に沿う必要はなく、まして全体の共通部分の範囲でしか行動できないということはあり得ない。

ただ、私人との関係で公平を保つことを厳に心がけていないと、社会的に発言力の強い者に対して過剰な利益を分配してしまう結果となり



かねず、公的機関に対する社会全体からの信頼自体が失墜してしまうこととなる。

特に、労使関係の場合は、一般論として対等な契約関係であるとは考えにくい社会的実態があることは否定できないが、法律の規制により労働者の地位が最低限保護されている現状では、個々の労使関係のあり方は、やはり「私人」間の契約と言わざるを得ず、それに対して公的機関が介入したり、一方の当事者に対する支援を行うことは、原則としては慎重にならなければならないと言わざるを得ない。

【悪魔】 雇い止めを受けて失業した人の最低限度の生活を支えることと、個々の雇い止めが妥当かとは、全然別の話でしょう？ それにそもそも、企業の経営判断をあらゆる場面で尊重し続けた結果が今の状況だというのなら、公的機関の側でもはつきりとした政策を打ち出す必要があるんじゃないですか？ 大体、公的機関だって、財政状態が怪しい所もないわけではないようですから、それこそ「明日は我が身」かもしれませんねえ。